

第1号様式

(第1面)

事業活動脱炭素化取組計画書

(宛先) 川崎市長

郵便番号 100-8088

住所 東京都千代田区大手町一丁目4番2号

氏名 丸紅株式会社

代表取締役 及川健一郎

(代理人) 国内電力・インフラサービス事業部長 須田 彰

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	丸紅株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区水江町4番1号		
該当する事業者の要件 及び温室効果ガスの排 出を行う産業、運輸そ の他の部門	<input checked="" type="checkbox"/>	規則第4条第1号該当事業者	エネルギー転換 部門
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第2号該当事業者	部門
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第3号該当事業者	部門
	<input type="checkbox"/>	規則第4条第4号該当事業者	部門
主たる事業 の業種	大分類	F	電気・ガス・熱供給・水道業
	中分類	33	電気業
主たる事業 の内容	発電事業者、特定送配電事業者		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/>	原油換算エネルギー使用量	9,164 kL
	<input type="checkbox"/>	自動車の台数	台
	<input type="checkbox"/>	エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄	※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	2025 年度 ～ 2027 年度
事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量の削減等を図るための基本方針	別添 指針様式のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減等に向けた組織体制	別添 指針様式のとおり
事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量及び当該量の削減に係る事項	別添 指針様式のとおり
エネルギーの使用量及び当該量の削減に係る事項	別添 指針様式のとおり
再生可能エネルギー源の利用及び使用するエネルギーの電化に係る事項	別添 指針様式のとおり
自動車の使用に伴う温室効果ガスの排出の量の削減に係る事項	別添 指針様式のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減等に寄与する技術又は製品の開発等に係る事項	別添 指針様式のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 計画書には、事業活動脱炭素化取組指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。

1 事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量の削減等を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量の削減等に向けた方針

川崎クリーンパワー発電所の基本方針

当該発電所は13A中圧都市ガス（主成分はメタンガス）を燃料としたガスエンジン発電機で構成される。都市ガスは燃焼すると水と二酸化炭素に分解されるが、メタン(CH₄)と二酸化炭素(CO₂)は共に温室効果ガスの代表格である。ただしメタンの温室効果は二酸化炭素の10倍あるとされるので、いかに効率よくメタンを燃焼させ、二酸化炭素に変換できるかが地球温暖化対策に貢献することになる。

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDCAサイクル）を行うための方針

効率の良い燃焼を行うためには、ガスエンジンの発電効率を経年劣化カーブの上限になるよう、常にガスエンジンのメカニックコンディションをメンテナンスにより最良に保ち、燃焼状態を空燃比調整により高効率に保つことが必要である。

よって、①運転時間に基づく定期的なメンテナンスを確実に行う②4台のガスエンジンを計画的に運転し、効率の高い負荷運転領域での運用に努める③日常点検により不調/故障の前兆を監視し、臨時メンテナンスを行う時はタイムリーで短い復旧時間で済ませ、ベストコンディションのキープに努める

2 温室効果ガスの排出の量の削減等に向けた組織体制

川崎クリーンパワー発電所

以下管理組織のもと削減に向けて取り組む

管理組織

- ①リーダーは発電所長とする。
- ②メンバーは発電所長、エネルギー管理士、発電所員で構成する。

3 事業活動に伴う温室効果ガスの排出の量及び当該量の削減に係る事項

(1) 計画期間の温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量((基)は基礎排出量を、(調)は調整後排出量を示す。以下同じ。))

	1、2号該当者		3号該当者		4号該当者	
基準年度	2024	年度	2024	年度	2024	年度
目標年度	2027	年度	2027	年度	2027	年度
基準排出量 (t-CO ₂)	(基) 1,073 (調) 1,073		(基) (調)		(基) (調)	
目標排出量 (t-CO ₂)	(基) 1,055 (調) 1,055		(基) (調)		(基) (調)	
削減量 (t-CO ₂)	(基) 18 (調) 18		(基) (調)		(基) (調)	
削減率	(基) 1.7 % (調) 1.7 %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	

イ 温室効果ガスの排出の量の実績

			1、2号該当者		3号該当者		4号該当者	
第1年度	2025年度	排出量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減率	(基) % (調) %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	
第2年度	2026年度	排出量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減率	(基) % (調) %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	
第3年度	2027年度	排出量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減量 (t-CO ₂)	(基) (調)		(基) (調)		(基) (調)	
		削減率	(基) % (調) %		(基) % (調) %		(基) % (調) %	

(2) これまでの取組における温室効果ガス排出の量の削減目標等

比較年度	1、2号該当者		3号該当者		4号該当者	
	2013	年度	2013	年度	2013	年度
比較年度排出量 (t-CO ₂)	(基) (調)	224 192	(基) (調)		(基) (調)	
目標排出量 (t-CO ₂)	(基) (調)	1,055 1,055	(基) (調)		(基) (調)	
削減率(目標)	(基) (調)	-371.0 % -449.5 %	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %
削減率(第1年度)	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %
削減率(第2年度)	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %
削減率(第3年度)	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %	(基) (調)	% %

(3) 目標設定に関する説明

発電所の定期的な保守点検を行うことにより経年劣化を抑制し、また運転方法の効率化により、現状の高効率運転を維持することを前提とし、上記の目標(現状維持)を設定する。
 しかし乍ら、年間発電量が低下し一日の連続運転時間が短くなると、暖機運転時間比率が高くなり平均熱効率が悪化する等の避けられない事態があるので慎重に運用したい。
 なお、川崎クリーンパワー発電所の場合は電気の使用に伴い排出するCO₂は使用者側で算出することとなるため、基準排出量及び目標排出量には反映されない。
 当該事業所におけるCO₂排出量は以下のとおり。
 (2024年実績)
 ・配分前：19,199ton
 ・配分後：2,307ton

(4) 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況及び措置の状況等

(計画には、計画期間内に実施する温室効果ガスの排出量の削減に向けた措置の内容を事業活動脱炭素化取組指針の別表第1から6等を参考に記載してください。)

計画	(1) 高効率の運転を維持できるよう管理を行う。 (2) また、複数の発電専用設備の並列運転に際しては、個々の機器の特性を考慮の上、負荷の増減に応じて適切な配分がなされるように管理し、総合的な効率の向上を図る。
第1年度	
第2年度	
第3年度	
計画期間における排出量の増減等についての評価 (第3年度の報告時に記載)	
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)	

4 エネルギーの使用量及び当該量の削減に係る事項

(1) エネルギーの使用量に係る原単位等の値(1、2号該当者)

原単位等の活動量	都市ガス	原単位等の単位			kl/千m3
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度
エネルギー消費原単位等の値	0.2069				0.2069
活動量の値	44,287				44,287
エネルギー消費原単位の削減率		%	%	%	0.0 %

(2) 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値(4号該当者)

原単位等の活動量		原単位等の単位			
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度
排出量原単位等の値					
活動量の値					
排出量原単位の削減率		%	%	%	%

(3) 目標設定に関する説明

発電計画は市況によって変化し、自社で決めることは出来ない上に、発電設備は経年により劣化はあっても若返りは無いので、削減は無理としても、定期整備で現状を維持すると仮定し、基準年度と同じ値に設定しました。

(4) 基準年度からの原油換算エネルギー使用量等の推移(1、2号該当者)

ア 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
原油換算エネルギー使用量	9,164 kL	kL	kL	kL
エネルギー起源CO ₂ 排出量	1,073 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
事業所の数	1			

イ 事業所単位

基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量<<クレジット考慮>>(t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
丸紅株式会社(川崎クリーンパワー)	川崎市川崎区水江町4番1号	1,073			

(5) 計画期間のエネルギー消費原単位等の状況及び措置の状況等

(計画には、計画期間内に実施するエネルギー消費原単位の改善、エネルギー使用量の削減等に向けた措置の内容を事業活動脱炭素化取組指針の別表第1から6等を参考に記載してください。)

計画	(1) 高効率の運転を維持できるよう管理を行う。 (2) また、複数の発電専用設備の並列運転に際しては、個々の機器の特性を考慮の上、負荷の増減に応じて適切な配分がなされるように管理し、総合的な効率の向上を図る。
第1年度	
第2年度	
第3年度	
計画期間におけるエネルギー消費原単位等についての評価 (第3年度の報告時に記載)	
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)	

5 再生可能エネルギー源の利用及び使用するエネルギーの電化に係る事項 (1、2号該当者)

(1) 再生可能エネルギー源等の導入

ア 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入 (基準年度)

種 類	設備規模 (kW)	発電量 (kWh/年)	余剰売電量 (kWh/年)	導入 (保有) 年度
太 陽 光				予定なし
風 力				予定なし
バ イ オ マ ス (燃料:)				予定なし
そ の 他 ()				予定なし
そ の 他 ()				予定なし
合 計				

イ 使用電力の再生可能エネルギー電源比率

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標年度
電力エネルギー 消費量	1,127,000 kWh	kWh	kWh	kWh	1,127,000 kWh
再エネ電源等	0 kWh	kWh	kWh	kWh	0 kWh
再エネ電源比率	0.0 %	%	%	%	0.0 %

(2) 電気事業者等から調達する電力の排出係数

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標年度
排 出 係 数 (kg-CO ₂ /kWh)	0.577				0.577

(3) 使用エネルギーの電化の取組

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度	目標年度
電 化 の 割 合	2.7 %	%	%	%	2.9 %

(4) 目標設定に関する説明

経済性の観点から現時点で予定なし。

(5) 計画期間の再生可能エネルギー源等の導入、電気事業者等から調達する電力の温室効果ガス排出係数等の状況

計画	
第1年度	
第2年度	
第3年度	
計画期間における再生可能エネルギー源等の導入等の評価 (第3年度の報告時に記載)	
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)	

7 温室効果ガスの排出の量の削減等に寄与する技術又は製品の開発等に係る事項

(1) 全社を含む取組

ア 脱炭素表明・中長期の温室効果ガス削減目標の設定

項目	計画	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
(ア) 脱炭素に向けた表明の有無				
有無	2050年までの脱炭素化表明有・計画有			
内容	2050年までにGHG排出ネットゼロ、2030年までにScope1, 2のCO2排出量を2020年3月期比50%削減			
(イ) 脱炭素に向けた表明の達成年度の目標				
年度	2050 年度	年度	年度	年度
(ウ) 中間目標				
目標	2030 年度	年度	年度	年度
	50 %削減 (2020)年度比	%削減 ()年度比	%削減 ()年度比	%削減 ()年度比

イ 脱炭素化に資するイノベーションの取組

項目	計画	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
有無	取組実績なし			
内容				

ウ 中長期的な視点での温室効果ガスの排出量の削減目標

項目	計画	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
有無	有			
内容	2050年までにGHG排出ネットゼロ、2030年までにScope1, 2のCO2排出量を2020年3月期比50%削減			

エ 二酸化炭素を排出しない熱エネルギーの導入

項目	計画	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
有無	導入なし			
内容				

オ SBT等イニシアチブへの加盟・賛同

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
SBT	該当なし			
RE100	該当なし			
RE Action	該当なし			
TCFD	該当なし			

カ サプライチェーン全体での削減の取組

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	記載なし			
内容				

(2) 市内事業所の取組

ア 川崎CNブランドの認定の取得

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	製品・技術等の利用なし			
認証年度				

イ 川崎メカニズム認証制度の認証の取得

項目	計画	第1年度	第2年度	第3年度
有無	取得なし			
認証年度				

備考 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。

8 地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項（3から7までの事項を除く。）
 （各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。）

目標年度までの計画	特になし
第1年度	
第2年度	
第3年度	